

平成27年産水稻の生育状況と今後の対策 (水稻生育診断技術確立調査-4号)

農林総合研究センター
平成27年6月18日調査

気象経過

1. 6月第2半旬の平均気温は、金沢、輪島ともに平年並となった(金沢:-0.2℃、輪島:+0.1℃)。日照時間は、金沢、輪島ともに平年より多く(金沢:115%、輪島:120%)、降水量は、金沢が平年並、輪島は平年よりかなり多くなった(金沢:109%、輪島:265%)。
2. 6月第3半旬の平均気温は、金沢、輪島ともに平年よりかなり高くなった(金沢:+3.0℃、輪島:+2.4℃)。日照時間は、金沢、輪島ともに平年よりかなり多く(金沢:134%、輪島:133%)、降水量は、金沢、輪島ともに平年よりかなり少なかった(金沢:18%、輪島:18%)。
3. 6月18日に新潟地方気象台から発表された、向こう1か月の予報では、平年に比べ曇りや雨の日が少ないでしょう。降水量は平年並または少ない確率ともに40%、日照時間は平年並または多い確率ともに40%です。

生育概況等

【生育状況】

1. 茎数は、コシヒカリが加賀地域で平年比83~110%(平均99%)、能登地域で平年比86~154%(平均107%)と、加賀地域、能登地域とも平年並となっており、茎数の増加程度は前回と概ね同様となっている(県平年比102% 前回県平年比103%)。
ゆめみづほは、加賀地域は近年並(平均109%)、能登地域はやや多くなっており(平均112%)、県内全域で分けつが近年より多くなっている圃場が散見される。茎数の増加程度は前回調査に比べやや緩やかとなっている(県近年比109% 前回県近年比123%)。
2. 葉齢は、コシヒカリが加賀地域で+0.3葉、能登地域で+0.5葉、ゆめみづほが加賀地域で+0.3葉、能登地域は+0.5葉となっており、葉齢展開からみた生育の遅速は、コシヒカリで平年に比べて2~3日早く、ゆめみづほで近年に比べて2~3日早い。
加賀地域平坦部の田植えの早いゆめみづほで幼穂が確認されている(幼穂長0.3~1.5mm)。
3. 草丈は、コシヒカリが平年比92~119%(平均104%)と平年並、ゆめみづほは近年比100~120%(平均112%)と長い。
4. 葉色(葉色版値)の発現は、コシヒカリが4.5(平年比99%)と平年並、ゆめみづほで4.7(近年比99%)と近年並となっている。

6月18日

m²当たり茎数(平年、前年)及び株当たり茎数

コシヒカリ	県平均	504本	(平年比 102%)	前年比 110%)	27.4本/株
	加賀	514本	(平年比 99%)	前年比 112%)	27.9本/株
	能登	488本	(平年比 107%)	前年比 106%)	26.8本/株
ゆめみづほ	県平均	569本	(近年比 109%)	前年比 112%)	33.4本/株
	加賀	598本	(近年比 109%)	前年比 113%)	34.7本/株
	能登	488本	(近年比 112%)	前年比 108%)	29.6本/株

【病害虫の発生状況】

1. 雑草地で飛翔性カメムシ類が確認されている。
2. イネドロオイムシによる食害が散見されている。
3. 6月17日に金沢、輪島でBLASTAMによる、いもち病の感染好適日が確認された。

当面の対策

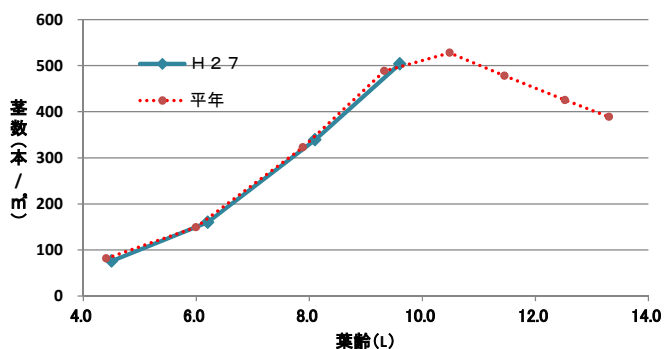
1. 乳白粒の発生防止のため、中干しを継続し、遅発分けつの発生抑制、籾数過剰防止に努める。なお、中干しを行っていない圃場では、直ちに中干しを実施する。

2. 用水量が十分確保できない地域においても、根の活力向上を図るため、田面の亀裂が生じない程度に中干しを実施する。
3. 5月20日以降に移植が行われたほ場においても、生育が平年より早く、分けつの発生が旺盛となることを見込まれることから、移植後1ヶ月を目安に中干しを開始する。
4. 中干し効果を高めるため、溝切りを実施する。なお、溝切り間隔はほ場の排水条件に応じ、10~15条間隔とし、末端を排水溝に接続する。
5. 早生は、幼穂形成期を迎えるので中干しは6月25日頃までとし、以後、間断通水による飽水管理を行う。
6. 稲体の健全化を図るため、ケイ酸質資材を未施用のほ場では直ちに施用する。
7. 早生の生育が近年よりやや早まっているので、分施体系による施肥管理を行う場合は、幼穂を確認し、穂肥の時期を逸しないようにする。なお、1回目の穂肥は幼穂1~2mを確認し施用する。
8. 斑点米カメムシ類の発生密度を下げるため、生息場所である畦畔や農道の除草を徹底する。除草を集落など地域全体で一斉に実施すると密度低下の効果が高い。なお、刈り払った雑草は用排水路に入らないように注意する。
9. いもち病の感染好適日が確認されていることから、葉いもちの早期発見に努め、発生を認めたら直ちに防除を行う。
10. 過去に白葉枯病が多発した地域で予防剤を箱施薬していない場合は、予防粒剤を6月20~30日に散布する。

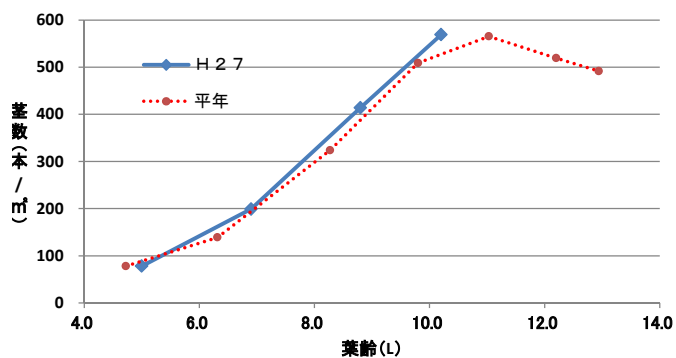
<参考：葉齢における茎数の増加>

葉齢を基に茎数の増加を平年と比較すると、茎数の増加はコシヒカリは概ね平年並、ゆめみづほは平年に比べやや多い。

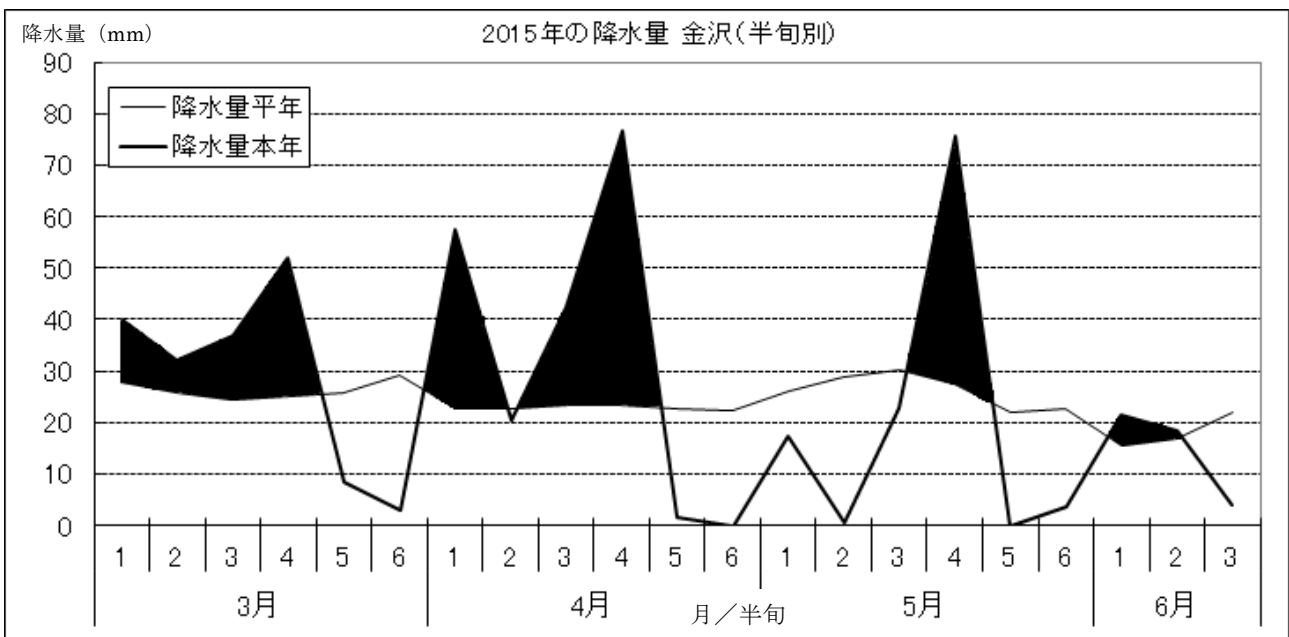
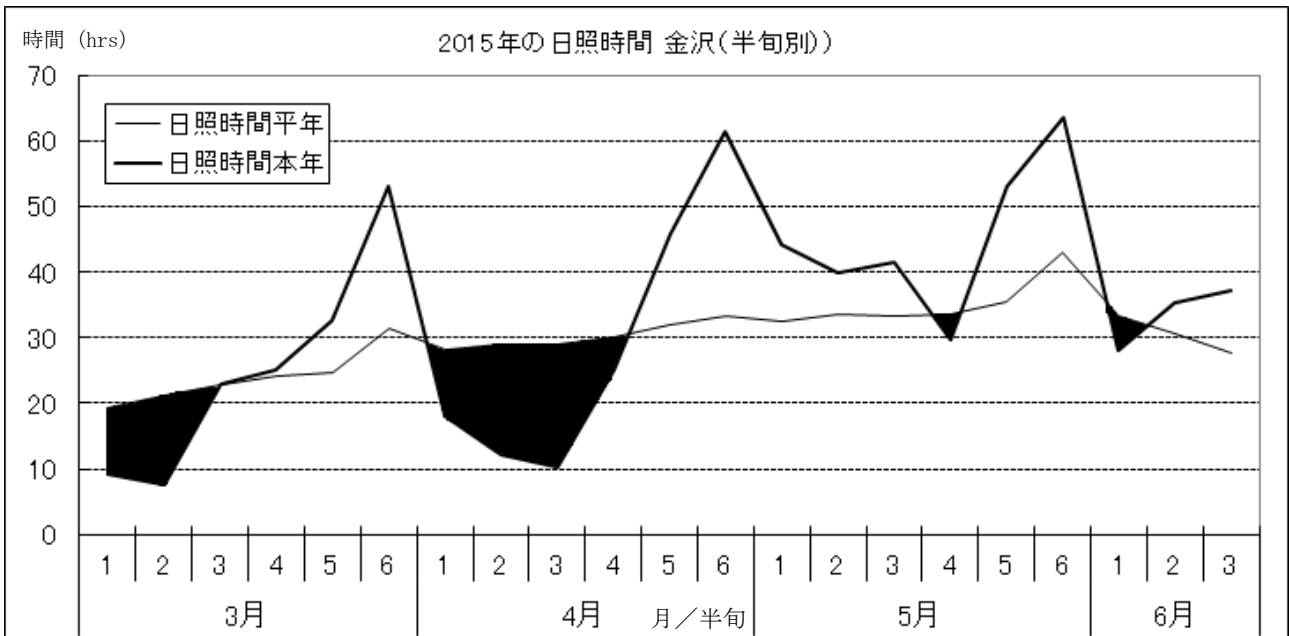
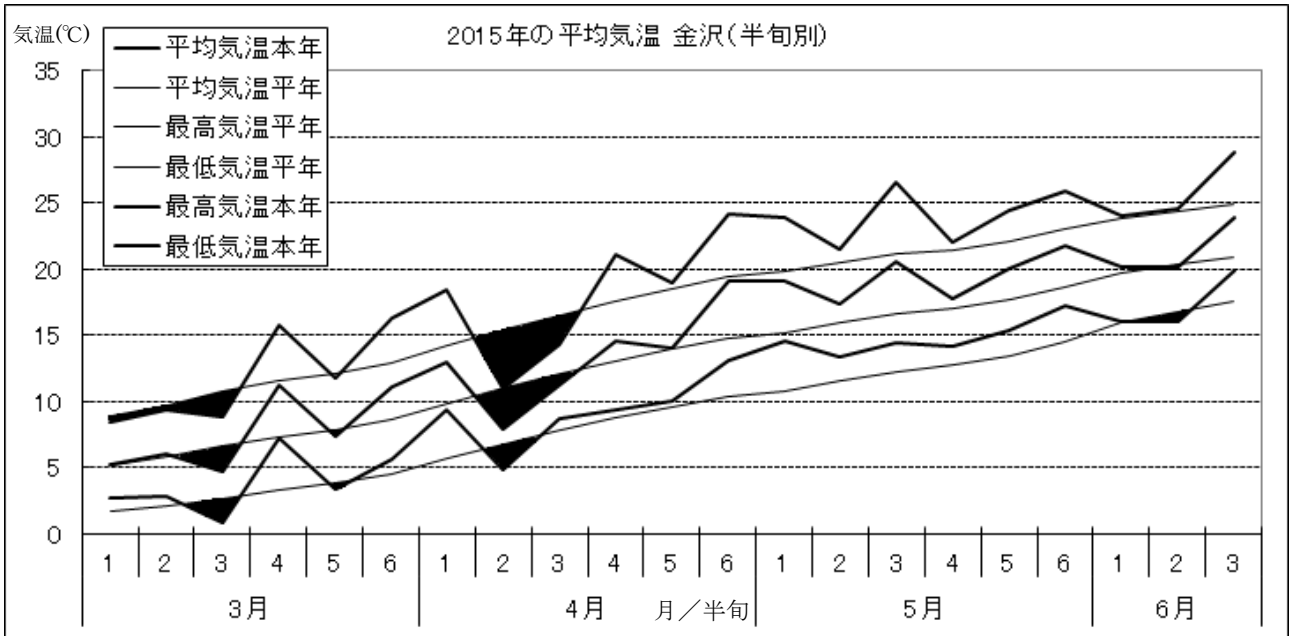
葉齢と茎数(コシヒカリ)



葉齢と茎数(ゆめみづほ)

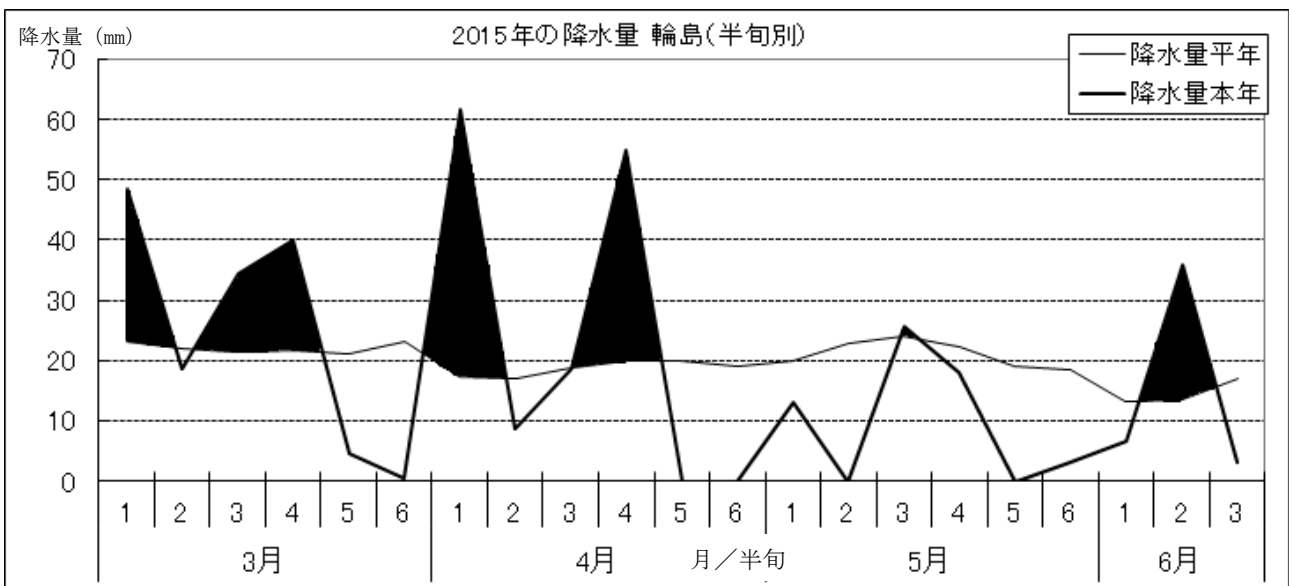
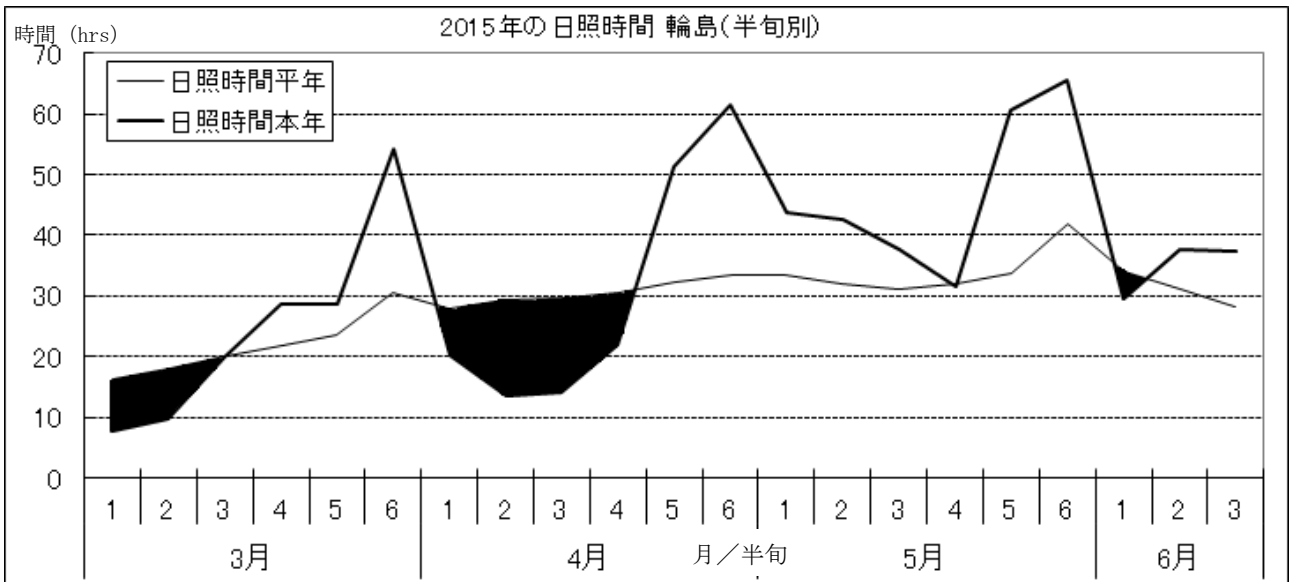
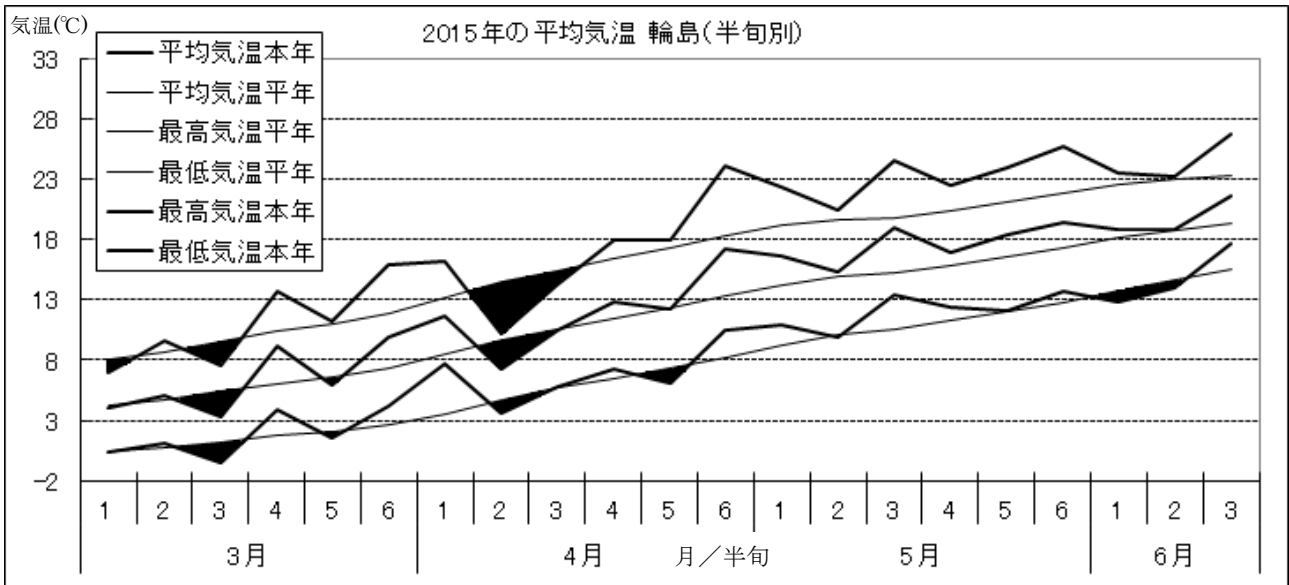


気象経過イメージ (金沢气象台)



※金沢气象台観測データを基に石川県農業試験場が作成
 ※平年値は過去30年間(昭和56年~平成22年)の平均値
 ※降水量・日照時間については、1、3、5、7、8、10、12月の第6半旬は、6日間の合計値となるため、他の半旬より値が大きくなる場合が多い

気象経過イメージ（金沢気象台）



※金沢気象台観測データを基に石川県農業試験場が作成

※平年値は過去30年間（昭和56年～平成22年）の平均値

※降水量・日照時間については、1、3、5、7、8、10、12月の第6半旬は、6日間の合計値となるため、他の半旬より値が大きくなる場合が多い